

**ご意見・ご質問コーナーに寄せられたご意見ご質問
(期間：平成24年1月5日～平成24年1月18日)**

中部電力浜岡原発の再稼働の取りやめ依頼

○年 齢 : 46歳～50歳

○性 別 : 男性

○職 業 : 無職

○都道府県名: 愛知県

○ご意見の内容:

現在操業停止中の浜岡原発を安全性を確保した上で再稼働しようという計画があるようですが、その計画の取りやめを依頼いたします。

中部電力の浜岡原発の東海地震に対する対策に関する説明を拝見いたしました。前提とする地震の規模がこれまでに発生した地震の規模に基づき想定されたものであり、それ以上の規模の地震に対応できるものではないようです。

東日本大震災は以前に発生した地震の規模をはるかに超えたものであり、次回の東海地震についても中部電力の想定する規模以上の地震が発生する可能性がないとは言えません。

万が一、想定以上の地震が起こったり、想定した地震対策では対応しきれない事態が起こり、重大な原発事故となってしまった場合には、日本の国家存亡の危機ともなりかねません。

いくら万全の地震対策をとっているとしても、震源域の真上で原発を稼働するなどという非常識な行動は決して許せるものではありません。

これまで自然災害についての対策が数多く行われてきておりますが、想定した対策以上の事態が起こり惨事となってしまったことは数多くあります。

よろしくご検討願います。

『年頭の所信』について

○年 齢 : 46歳～50歳

○性 別 : 男性

○職 業 : 自営業

○都道府県名: 東京都

○ご意見の内容:

平成 24 年の『年頭の所信』を拝見しました。
ちょっと、愕然としました。我々一般市民の感情とはかなりかけ離れている部分があるからです。

今回の原発事故に対するお詫びは理解できます。(事故直後に「技術に対する過信があったかもしれない」という反省の言葉があったのも報道で知っています)

しかし、お詫びのあとに続く文章はいったいなんでしょう。

国と東電に対して「～すべきである」という“べき論”ばかりではありませんか。

原子力委員会そのものの反省はどこにあるのですか？

原子力委員会に变革すべきところはないのですか？

他人に対する“べき論”を述べるだけでは、相変わらずの“他人事体質”ではないですか？

このような“他人事体質”が改まらない限り、「国民の信頼」は得られないと思います。

信頼が得られなければ、再処理も最終処分も核融合などの革新的技術への道のりも、険しいものとなるでしょう。